



通常訪問研修を終えて 舟橋中学校

研修主題：自ら考え、共に学び合う生徒の育成
—確かな学力を実現するための、課題のありかた—

本校では、今年度「ふなはし『学び合い』スタイル」を基に、「課題のありかた」に焦点をあてて研修主題を設定しました。

〈「とやま型学力向上プログラム（Ⅲ期）」に照らした本校の取組の位置付け〉

視点1 子供の問題（課題）意識を高める

生徒の解決意欲や学力を高める課題（研修主題）

視点2 子供が自己調整しながら学習を進めることができるようにする

「学び合い」スタイルの学習展開

また、今年度より「課題解決学習」の一環として5教科で「レポート学習」に取り組んでいます。これは、生徒が授業の中で抱いた興味・関心や疑問をもとに、自分でテーマを決めて、解決に向けた学習を進めていくものです。訪問研修では、このレポート作成に関わる授業を実践した教員もいました。

〈明らかになったこと〉

- 学習課題は価値判断をとまなうものにする。例えば「一番〇〇だと思うものは何か」という問いから入り、多様な意見を学んだ上で、振り返るときは大きな枠で捉えさせることで学習内容を大観できる。
- レポートの評価基準を明確にしておく。Aの基準を提示し、ゴールが見えるようにすることで、生徒の思考が働く。
- メタ認知の低い生徒にとっては、自ら課題を設定することは難しいため、何を学ぶ学習が明確にし、ユニバーサルデザインの視点を大切にしながら支援する。
- 班の話合いで自己調整が生まれにくい場合、班の枠を越えて生徒にコーディネーター役を務めてもらう対応も考えられる。

〈残された課題〉

- T2が、授業の単元目標やT1のねらいなどを理解した上で支援に入ること。
- 授業やレポートの評価基準をループリックで示し、回数を重ねるごとにその精度を上げられるようにすること。
- 話合いなど、授業の中で生じる自己調整を教員が見取り、研修を重ねること。



生徒の深い学びにつながる授業実践を重ねていきたいと思えます。

文責 教務主任 日水 徹

